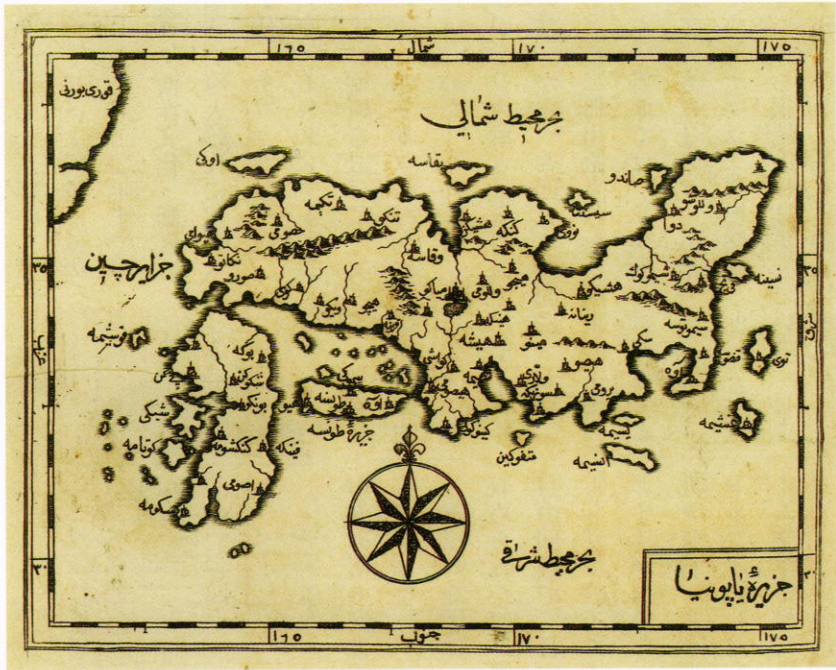


やまとの名品 天理図書館



世界の鏡 ミュテフェツリカ版

キャーティプ・チェレビー著

イスタンブル 1732年刊

縦30.5cm 横21.5cm

オスマン朝最も偉大な博物学者といわれるキヤーティプ・チエレビー（一六〇九～一六五七年）の世界地理書。体系化された優れた地理書と言われ、地誌としての史料の価値が高く評価されている。刊行は、アジアの部分のみが著者没後にイブラーヒーム・ミュテフェツリカの印刷所で出版された。

オスマン朝では、神聖なアラビア文字をキリスト教起源の活版印刷術によって印刷することに強い抵抗があり、ムスリム（神に帰依する者）によるアラビア文字印刷を長く禁じていた。

チューリップ時代といわれる

一七一八年からアフメト三世廃位の
一七三〇年までの
西洋文化・制度の
導入時代に、ミュ
テフェツリカは、
イスタンブルに印

刷所を設け、イスラーム世界初のトルコ語の金属活字印刷を始めた。それらは、ミュテフェツリカ版と通称され、一七二九年から一七四二年の間に一七点二二冊出版された。欧米の主要図書館では、学術的な重要性とともにイスラーム世界のインクエナブラ（揺籃期本）として珍重し網羅的に蒐集している。日本では天理図書館、東京大学など



の五カ所の図書館で六点所蔵するにすぎない。
掲出の地図は、『世界の鏡』に収められた四〇図のうち二四番目の図版で「日本島」の図。ポルトガルのイエズス会士テイシエイラが描いた「日本図」（一五九五年初）を小型にした図からトルコ語訳したもので、イスラーム文献中最古の日本図である。

（天理図書館 神崎順一）